

野菜の展望

今月の野菜は、全国的な低温推移があった影響で、施設野菜・露地野菜ともに生育遅れが目立ち、不安定な入荷状態は上旬まで続きそうです。このような状況下ではありますが、県内産の野菜は品目数も徐々に増え、県外産においても平坦地から高冷地へと産地移行しながら、季節を彩るさまざまな商材が加わり、賑わいのある売り場となってきます。

季節商材の筍は石川産の入荷です。今年は裏年と低温の影響により極めて少ないので、販売時期を逃さないようお願いいたします。梅は、古城（和歌山産）主体に小梅（佐賀・福岡・和歌山産）が、平年並の入荷予想です。良京は徳島・高知産に、後半からは石川産の入荷で小玉傾向と見られます。山菜類は、石川産のワラビ・山ブキが出荷最盛期を迎え、中旬にはカタハも増量となります。

根菜類の大根は、千葉産主体に愛知・茨城・九州産、石川産の春大根は中旬からの入荷となり、平年並の入荷が見込まれます。人参は、徳島産に加えて中旬より岐阜産の入荷で、両産地ともに出荷減が予想されます。

葉洋茎菜類のキャベツは、愛知産主体に兵庫・和歌山・宮崎・石川産の入荷です。上旬は品種の切り替り時期で不安定な入荷となるも、全体的には平年並の出回りとなります。白菜は茨城産主体の入荷で、中旬からは石川産も加わります。高冷地の長野産は1週間から10日遅れで下旬からの出回りとなります。葱は、埼玉・群馬産（春葱）主体に九州各地より出荷があり、中旬からは茨城産（夏葱）の入荷予定です。小葱類は、博多万能葱中心に愛知・静岡産の出回りです。ほうれん草は、生育遅れが見られるものの、中旬以降は岐阜産が出荷ピークを迎えることや、石川・群馬産が加わることもあり潤沢な入荷を見込んでいます。レタスは、兵庫（淡路島）産主体に中旬より長野産も加わりますが生育遅れが心配されます。ブロッコリーは、中旬より石川産の本格出荷となり下旬には最盛期を迎えます。アスパラは、長野産露地物がピークを迎え、下旬からは北海道産も加わり潤沢な出回りが期待されます。

果菜類の胡瓜は、石川産主体に群馬・高知・愛知産の入荷です。高知・愛知産は下旬に終了予定で、福島・山形産の入荷は震災の影響から6月にずれ込む見込みです。加賀野菜の太胡瓜は中旬以降より潤沢な入荷となります。南瓜は中旬より鹿児島産の出荷が始まります。輸入品はニュージーランド産が上旬まで、メキシコ産は下旬には終了する予定です。茄子は、高知・愛知産の中茄子、熊本産の長茄子、大阪産の大茄子・水茄子、群馬産の中・長茄子が順調な入荷から、おすすめの一品です。トマトは、愛知産主体に石川・九州各地からの入荷があり、県内産は下旬よりピークを迎えます。豆類は、石川産千石豆の入荷が始まり、インゲン・砂糖エンドウ・スナップエンドウ・ソラマメ等も出回ります。

菌茸類の生椎茸・なめこ・えのき・しめじ類は、石川産主体に順調な入荷を見込んでいます。

土物類の馬鈴薯は、長崎・鹿児島産の入荷ですが、両産地ともに生育期の天候不順から入荷量は前年を下回ります。玉葱は、兵庫・大阪・佐賀より平年並の入荷が見られます。生姜は、高知が豊作傾向から潤沢な出荷が見込まれ、新生姜も高知産中心に増量となる予想です。

5月は、前半の大型連休、中旬の母の日など各種イベントに併せ多彩な企画立案の上、販売拡大にご協力をお願い致します。

《野菜第一部 田中 昭市》

果実の展望

今月の果実は、瓜類主力の販売時期を迎えます。

西瓜ですが、大玉西瓜は熊本産の入荷で、前半はL階級、後半からは2L中心の玉流れになります。小玉西瓜は、群馬産主力で2L中心の入荷が予想されます。

メロン類では、主力産地の静岡産マスクメロンが春系品種に切り替り、全体に大玉傾向と見られ、前年並の入荷が見込まれます。高知産アールスメロンについては、前年に対して約80%の出荷が予想されます。熊本産は、アンデス・アールス・クインシー・ホームラン等の多種類の瓜類の入荷が見込まれます。関東産はアンデス・クインシー等で、玉太りについては両産地ともLA・2L中心になると予想されます。

苺は、主力の愛知産が5番果のピークを過ぎた中旬過ぎより急激に減少するものと思われます。

枇杷は、長崎産主力でL中心の入荷となります。ハウス物については中旬までの販売予定となっており、引き続き露地物の出回りとなって平年並の入荷が予想されます。

りんごは、青森産のフジが主体となり前年並の入荷が見込まれ、玉流れは40玉・36玉中心となるようです。

柑橘類では、鹿児島産の紅甘夏、三重産のサンフルーツ等の入荷が予定されています。ハウスみかんは、愛知産主力で前年より少なめの入荷となります。九州産については中旬からの入荷となるようです。

桜桃は、山形産の佐藤錦主力の入荷となり、ハウス物は下旬にピークを迎える見込みです。

ハウス物のデラウエアは、中旬より大阪産の入荷を見込んでおり、島根産も下旬より入荷予定です。岡山産のマスカット・オブ・アレキサンドリアは、下旬に初売りを迎えます。

輸入果実のバナナは、フィリピン・南米産ともに順調な入荷が見込まれます。台湾産についても少量ながら安定した入荷となり、価格は前年並にて安値推移すると思われます。オレンジは、ネーブル種が大玉、バレンシア種は小玉傾向となりますが、どちらも安定した入荷が見込まれます。フロリダ産グレープフルーツは、例年より早めの切り上がりが予想されます。カリフォルニア産レモンは、入荷量は多くないものの安定した出回りが期待されます。パイナップルは、ゴールド・スイーティオ種共に順調な入荷が見込まれます。キウイはニュージーランド産がスタートし、ゴールド・グリーン共に安定した入荷が予想されます。カリフォルニア産チェリーは天候の影響により生育遅れが見られ、入荷は若干遅れるものの、前年並の入荷量と見られます。その他、メキシコ産ハネジューメロン・マンゴー、チリ産レッドグローブの販売に加えて、ニュージーランド産の温州みかんなど変化のある商材が提供できるシーズンとなります。

今月は、ゴールデンウィークを迎え各種イベントも盛りだくさんに企画されると思いますので、宜しく販売の程御願ひ申し上げます。

(果実部 大西 信哉)